

第2表 秋ソバ春播きの生育

	播種 30 日後		播種 40 日後	
	草 丈	葉面積指数	草 丈	葉面積指数
	cm	m ² /m ² field	cm	m ² /m ² field
ソバ散播	72.5	4.41	135.5	5.22
ソバ条播	66.2	4.22	127.9	7.87
大豆条播	20.9	0.36	41.1	1.87
メヒシバ	6.0			
タ デ	10.5			

注) 5月29日播種

種において、その葉面積指数は播種1か月後で4.2～4.4（同一播種期の大豆は0.4）、45日後では5.2～7.9（大豆は1.9）である。この試験では化成肥料（3・10・10）を10a当り100kg施している。なお、この生育では、開花はしても種子生産は期待できない。家畜農家とつながりのあるところでは、飼料として利用するとよい。ヨーロッパでは、この方法で、ソバを飼料作物として利用しているとの報告もある。普通のところでは、刈ってから、すき込む。放っておくと、降霜で変色、枯死して、水分含有率が10%近くまで低下するので、すき込むのにも便利であり、また火をつければ簡単に燃える。播種法は条播でも散播でもよいが、条播して、1回中耕すれば雑草抑圧は完全である。しかし、ソバにはヨトウムシが集まりやすく、乾燥条件

では大発生することもあるので、その作付にあたっては周囲の野菜畑への配慮が十分必要である。

以上は休耕2～4年の畑の復元について示したものであるが、5～6年、それ以上に長い休耕畑もある。実際に求められているのは、これらの休耕畑の管理あるいは復元後の対策である。多年生雑草が優占しているので、管理も難しく、復元の場合にも、簡単な方法では多年生雑草が再発生する。いずれにしても、除草剤の適用が必要である。

ススキなどにはテトラピオンの出芽前～出芽初期におけるスポット処理が、また、ススキ以外のイネ科雑草にはDPA（3kg/10a以上）が有効といわれる。また、広葉の多年生雑草には2.4PAが効果的とされている。しかし、休耕畑の管理あるいは復元対策との関連で検討されているものはない。また、グリフォセートは効果的と推定できるが、これまた、データは少ない。これらの除草剤については、私も知見がないので、記述できないが、休耕畑の問題と関連して、今後、検討を必要とする薬剤であることは間違いない。研究の進展を望みたい。

野菜の除草剤について

農林省野菜試験場久留米支場長 栗山尚志

野菜の除草剤は、登録条件が厳しくなったのに伴い、最近では新規登録が中断されたかっこうであるが、目下申請中のものが多数あるやに聞く。各種試験が重ねられた結果、野菜に利用

可能な除草剤はかなりの数にのぼっているの、それらについて今後の利用の便に供するため、未登録薬剤を含めて、実用化可と判定済のものはこれを加えて一覧表にまとめ、以下に示すこ

とした。

1975年12月までに野菜用として登録済の除草剤、並びに1976年6月までに、同じく野菜用として実用化可と判定されているが薬剤が未登録、若しくは、薬剤は他作物を対象に登録済であっても野菜用には使用基準が未登録の薬剤を、一括して第1表に示した。同表によれば、31種の野菜用として登録されている薬剤数は35種類に達し、他作物を対象に登録されている薬剤で野菜用として未登録のもの19種類、全く登録されていない薬剤は17種類である。又、野菜の種類別に登録若しくは実用化可と判定されている薬剤数を調べると、第2表のようである。特に、我が国の作付面積の多い野菜で登録除草剤の少ないか、全くないものとして、サトイモ、ネギ、キュウリ、ナス、ゴボウ、カボチャ、エンドウなどがあり、これらのうちネギ、キュウリ、ナス、ゴボウについては、実用化可

と判定されながら未登録の例がかなり多いので、すみやかな登録を期待したい。また、既登録数の多い野菜であっても、作型及び処理時期の組み合わせを考慮すると、すべての場面で満足できるまでには至っていないので、これらについても登録の促進、新薬剤の開発がなおいっそう望まれる。

次に、第1表に示した各薬剤の野菜に対する使用基準を第3表に示した。同表の利用にあたって注意を要することは、*印のないものについては、実用化可の判定はされているものの未登録であるので、普及指導を行ってはならないこと、並びに処理薬量については、使用基準の範囲で、使用する地域ごとに、同地域における最適処理量を定めるための予備試験を行う必要のあることである。というのは、例えば使用基準量の範囲内であっても、処理薬量の多い場合、土壌によって薬害の見られることがあったり、あるいは、低薬量では、その地域の草種によるなどして、除草効果が実用上不十分な場合もあり得るからである。なお環境汚染防止が叫ばれている昨今であるので、なるべく低薬量をとることが望まれる。

第4表には、未登録薬剤について、その薬剤特性を示した。

第1表 作物別・除草剤別使用基準登録の有無一覧

作物名 薬剤名	キ ャ ベ ツ	ハ ク サイ	ホ ウ レン ソ ウ	レ ミ ッ ス	パ セ リ ー	セ ル リ ー	シ ュ ン ギ ク	ア ス パ ラ ガ ス	ネ ギ	タ マ ネ ギ	ニ ン ジ ン	ラ ッ キ ョ ウ	ト マ ト	ナ イ マ ン	ピ ー マ ン	キ ュ ウ リ	ス イ ロ ン	メ ロ ン	イ チ ゴ	ダ イ コ ン	カ ブ	ニ ン ジ ン	ゴ ボ ウ	ヤ マ ノ イ モ	サ ト イ モ	シ ョ ウ ガ	イ ン ゲ ン マ メ	食 用 ユ リ
*NPA液剤																	○	○	○									
*DCPA乳剤				○																								
*CMMP乳剤					○	○							○							○		○						
*ジフェナミド水和剤													△	△	△	○			○									
*アラクロール乳剤	○	○	○	△									○						○	○								○
*NIP粒剤	△	○												△						○		○						
*NIP水和剤	△	○																		○		○						
*NIP乳剤	○	○		△	○					△	○		△				○		○	○	○	○	○	○				
*CNP乳剤	○	○																		○		○	○					

作物名 薬剤名	キャベツ	ハクサイ	ホウレンソウ	レタ	ミツバ	パセリ	セリ	シシトウ	アスパラガス	ネギ	タネギ	ニンニク	ラッキョウ	トモロシ	ナバナ	ピーマン	トウガラシ	キュウリ	スイカ	メロン	イチゴ	ダイコン	カブ	ニンジン	ゴボウ	ヤマノイモ	サトイモ	ショウガ	インゲンマメ	食用ユリ
* M C C粒剤											○																			
* M C C水和剤																														△
* I P C乳剤	○	○	○	○					○	○											○			○	○				○	
* I P C・DCMU水和剤										○																				
* D C M U水和剤									○	○																				
* リニュロン水和剤					○	○	○		○	△	○	△												○		○	○		○	
* C A T水和剤	○	○	○								○										○	○					○		△	
* プロバジン系水和剤																								○						
* プロメトリン水和剤	△									△	○											○							○	
* アトラジン水和剤									○																					
* アジプトリン水和剤	○																													
* クレダジン水和剤														○	○						○									
* レナシル水和剤			○																			△								
* トリフルラリン粒剤	△	○							○					△					○	△				△	△	△	△	△	△	△
* トリフルラリン乳剤	○	○	○	○					△	○				○	○		○	△	○	△				△	△	△	△	○	△	
* ベスロジン乳剤				○																										
* パラコート液剤	○	○	○	○	○	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
* S A P・プロメトリン乳剤	○	○		○	○			○	○	○				○	○		○	○			○	○	○							
* ニトラリン水和剤	○													△							△									
* ニトラリン粒剤	△																													
* 石油除草剤				○																				○						
* シアン酸塩水溶剤	○	○	○	○		○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
* E P T C粒剤																														○
* E P T C乳剤																														○
* I P C・リニュロン水和剤																														○
* D N B P液剤																														○
* D N B P A水和剤																														○
* クレダジン粒剤																						△								
* ジクワット液剤	△	△												△																
* N I P・プロピザミド水和剤	△	△																				△								
* フェンメディウム乳剤																						△								
* プロメトリン・アラクロール乳剤	△																													
* I P C・アラクロール乳剤	△		△																			△								
* C A T・I P C水和剤	△										△																			
* アシュラム液剤			△																			△								
* ベンチオカーブ乳剤				△																										
* プロピザミド水和剤				△																										
* バーナレート粒剤				△										△																
* アシュラム・アイオキシニル液剤								△																						
* ビオメート粉剤										△	△																			
* P A C・I P C水和剤											△																			
* I P C・DCMU水和剤											△																			
* アイオキシニル乳剤											△																			
* I P C水和剤											△																			
* P C P・リニュロン水和剤													△																	○

作物名 薬 剤 名	キャベツ	ハウレンソウ	レタス	ミツバ	パセリー	セルリ	シュンギク	アスパラガス	ネギ	タマネギ	ニラ	ラッキョウ	ニンニク	トマト	ナス	ピーマン	トウガラシ	キュウリ	スイカ	メロン	イチゴ	ダイコン	カブ	ニンジン	ゴボウ	ヤマノイモ	サトイモ	ショウガ	インゲンマメ	食用ユリ
ペノキサリン乳剤	△		△							△										△			△							
S-28乳剤	△		△							△				△					△	△				△						
NTN-80粒剤																								△						
NTN-80水和剤	△		△							△								△	△		△			△						
NTN-80乳剤																		△						△						
TCTP水和剤	△		△						△	△		△						△						△						
U-67水和剤	△													△								△								
U-67粒剤	△													△						△		△								
SL-55水和剤	△									△																				
ナプロバミド水和剤	△													△	△															
メトリブジン水和剤							△																							
パラコート起泡剤			△																											
NHKS粒剤			△							△																				
ベスタック乳剤					△				△	△				△		△					△				△	△				
NK-049水和剤										△																				
NTN-80トリブニール水和剤										△																				
トリブニール水和剤										△																				

* 登録薬剤（無印は未登録薬剤）

○ 使用規準が登録済のもの

△ 使用規準が未登録のもの（実用化可と判定されている）

△ 使用規準に登録済及び未登録ともにあるもの

第2表 野菜用除草剤の野菜の種類別登録・未登録薬剤数

野菜の種類	野菜用として登録されているもの	実用化可と判定されているがその使用基準が未登録のもの		合計	野菜の種類	野菜用として登録されているもの	実用化可と判定されているがその使用基準が未登録のもの		合計
		他作物に対して若しくは他の利用方法については登録のあるもの	全く登録されていないもの				他作物に対して若しくは他の利用方法については登録のあるもの	全く登録されていないもの	
キャベツ	14	10	8	32	ピーマン	3	1	1	5
ハクサイ	12	0	0	12	トウガラシ	3	0	0	3
ハウレンソウ	7	2	0	9	キュウリ	4	1	3	8
レタス	8	5	6	19	スイカ	7	1	3	8
ミツバ	6	0	0	6	メロン	3	3	0	6
パセリー	4	0	1	5	イチゴ	9	4	6	19
セルリー	3	0	0	3	ダイコン	10	0	0	10
シュンギク	1	0	0	1	カブ	4	0	0	4
アスパラガス	6	1	1	8	ニンジン	14	2	7	23
ネギ	4	5	2	11	ゴボウ	5	1	1	7
タマネギ	12	6	10	28	ヤマノイモ	3	2	0	5
ニラ	0	1	0	1	サトイモ	5	0	0	5
ラッキョウ	0	0	1	1	ショウガ	0	2	0	2
ニンニク	0	1	0	1	インゲンマメ	11	0	0	11
トマト	7	6	5	18	食用ユリ	0	3	0	3
ナス	5	2	1	8					

第3表 野菜用除草剤と使用基準

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理量/a	備考
キャベツ	*	アラクロール	ラツソー	乳		土壌	定植直後	10~20 ^{ml}	イネ科優占は場.
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	定植前	20~40 ^{ml}	
	*					同上	定植後	20~40 ^{ml}	
	*					土壌混和	は種前	15~30 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒	春~初夏まき	土壌	定植前	400~600 ^g	
	*				同上	土壌混和	定植前	300~500 ^g	
	*	NIP	ニップ	水和	春まき直はん	土壌	は種直後	40~60 ^g	
	*				春まき移植	同上	定植4~8日後	40~60 ^g	
	*	同上	同上	乳		同上	は種直後	80~100 ^{ml}	
	*					同上	移植前	80~100 ^{ml}	
	*					同上	活着後	80~100 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒	春まき直はん	同上	は種直後	600~750 ^g	
	*				春まき移植	同上	定植後	600~750 ^g	雑草発生前処理.
	*				秋まき移植	同上	定植直後~4日後	400~600 ^g	同上
	*				初夏まき	同上	は種後	600~750 ^g	
	*				夏まき	同上	定植直後~4日後	400~600 ^g	株間処理.
	*	CNP	MO	乳		同上	定植後	125~150 ^{ml}	うね間処理.
	*	IPC	クロロIPC	乳		同上	定植後	15~30 ^{ml}	
	*	CAT	シマジン	水和		同上	定植前7日	10 ^g	
	*					同上	定植後	10 ^g	
	*	アジプロトリン	メゾラニール	水和		土壌兼茎葉	定植直後から20日間	30~40 ^g	雑草発生前~2,3葉期.
	*	SPA・プロメトリン	エス	乳		土壌	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*					同上	定植活着後	60 ^{ml}	
	*	ニトラリン	プラナビアン	水和		同上	定植直後	20~30 ^g	雑草発生前処理.
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理.
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
キャベツ (続)	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450g	同上
	*					同上	収穫後	150~450g	同上
		ペノキサリン (ANK-553)		乳	春~初夏 まき	土壌	定植後	20~60 ^{ml}	
					夏まき	同上	定植前	20~40 ^{ml}	
		(S-28)	クレマート	乳	夏まき	同上	定植前	20~40 ^{ml}	
		(NTN-80)	トクノールM	水和	(初夏)まき	同上	定植後	25~50g	うね間株間 処理。
		TCTP (DAC-893)	ダクター	水和	春~夏 まき	同上	定植後	110~150g	
		(U-67)		水和	春~夏 まき	同上	定植活着 後	25~35g	うね間・ 株間処理。
		同上		粒	春~夏 まき	同上	定植活着 後	300~400g	うね間・ 株間処理。
		ジクワット	レグロックス	液	春~夏 まき	茎葉	定植活着 後	20~40 ^{ml}	うね間・株 間処理。雑 草5~6葉 期まで。
		プロメトリン ・アラクロール		乳	春~夏 まき	土壌	定植直後	20~30 ^{ml}	うね間株間。
						同上	定植活着 後	20~30 ^{ml}	うね間株間。
		(SL-55)		水和	夏まき	土壌	定植前	13~25g	
		ニトラリン	プラナビアン	粒	夏まき	同上	定植後	300~500g	
		ナプロパミド (R-7465)	テブリノール	水和	夏まき	同上	定植後	40~60g	
		IPC・アラク ロール		乳	(寒地)	同上	定植活着 後	20~25 ^{ml}	うね間・株 間処理。雑 草発生前全 期間。
		CAT・IPC		水和	春~初夏 まき	同上	定植直後	25~37.5g	うね間・株 間処理。
					同上	同上	定植活着 後	25~37.5g	同上
		RH-315T		水和	春~初夏 まき	同上	定植活着 後	30~50g	株間処理。
		プロメトリン	ゲザガード	水和	春~夏 まき	同上	定植活着 後	10~20g	うね間・株 間処理。
					同上	同上	活着後及 び生育期	10~15g	うね間株間 反復処理。
ハクサイ	*	アラクロール	ラッソー	乳		土壌	は種後	10~15 ^{ml}	イネ科優占 は場。
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	は種後	20~40 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理葉量/a	備考
ハクサイ (続)	*	トリフルラリン	トレファノサイド			土壌	定植前	20~30 ^{ml}	
	*					同上	定植後	20~30 ^{ml}	
	*					土壌混和	定植前	15~30 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒	春まき	土壌	定植前	400~600 ^g	
	*				春まき	土壌混和	定植前	300~500 ^g	
	*	IPC	クロロIPC	乳		土壌	定植1ヵ月以後	30~50 ^{ml}	
	*	NIP	ニップ	水和	春まき	同上	は種直後	40~60 ^g	
	*				同上	同上	定植後4~8日	40~60 ^g	
	*	NIP	ニップ	乳		土壌	は種直後	80~100 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒	秋まき	同上	は種直後	400~600 ^g	
	*	CNP	MO	乳		同上	は種後	125~150 ^{ml}	
	*	CAT		水和		同上	は種前10日以内	10 ^g	
	*					同上	は種直後	5 ^g	
	*	SAP・プロメトリン	エス			同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	バラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理.
	*					同上	は前前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
		ジクワット	レグロックス	液	春~夏まき	茎葉	生育期	20~40 ^{ml}	うね間・株間処理. 雑草5~6葉期まで.
		RH-315T		水和		土壌	は種後	30~40 ^g	
ホウレンソウ		アラクロール	ラツソー	乳		土壌	は種後	10~15 ^{ml}	イネ科優占は場.
		IPC	クロロIPC	乳		同上	は種後	10~15 ^{ml}	
						同上	催芽種子は種後	15~20 ^{ml}	
		CAT	シマジソ	水和		土壌	は種後	5~15 ^g	
		レナシル	レンザー	水和		同上	は種直後	10~15 ^g	
		アシュラム	アージラン	液	秋まき	同上	は種後~子葉展開期	60~80 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理量/a	備考
ホウレンソウ (続)		アシュラム	アーザラン		春～初夏 まき	土壌	は種後～子 葉展開期	80～100 ^{ml}	
					同 上	同上	同 上 芽出しまき	80 ^{ml}	
		I P C ・ アラクロール		乳	(寒地)	同上	は 種 後	20 ^{ml}	覆土を厚目 とする。
	* * * *	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生 育 期	15～30 ^{ml}	うね間処理。
						同上	は 種 前	15～30 ^{ml}	
						同上	植 付 前	15～30 ^{ml}	
						同上	収 穫 後	15～30 ^{ml}	
	* * * *	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生 育 期	150～450 ^g	うね間処理。 雑草幼小期。
						同上	は 種 前	150～450 ^g	雑草幼小期。
						同上	植 付 前	150～450 ^g	同 上
						同上	収 穫 後	150～450 ^g	同 上
レ タ ス	* *	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	定 植 前	20～30 ^{ml}	
						同上	定植直後	20～30 ^{ml}	
	*	ベスロジン	バナフィン	乳		同上	定 植 後	80～150 ^{ml}	
	* * * *	N I P	ニップ	乳		同上	は種直後	80～100 ^{ml}	
						同上	定 植 前	80～100 ^{ml}	
						同上	定植活着 後	80～100 ^{ml}	
						マルチ	同上	定植前マ ルチ前2日 以内	80～100 ^{ml}
	*	S A P ・ プロメトリン	エ ス	乳		同上	は種直後	50～60 ^{ml}	
	*	D C P A	スタム	乳		茎葉 兼 土壌	生 育 期	50～80 ^{ml}	結球種。雑 草2～3葉 期。レタス の葉にかか らぬよう散 布する。
	*	I P C	クロロ I P C	乳	露 地	土壌	定植活着 後	30～50 ^{ml}	株間・うね 間処理。レ タスの葉に かからぬよ う散布する。
	* * * *	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生 育 期	15～30 ^{ml}	うね間処理。
						同上	は 種 前	15～30 ^{ml}	
						同上	植 付 前	15～30 ^{ml}	
						同上	収 穫 後	15～30 ^{ml}	
	* *	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生 育 期	150～450 ^g	うね間処理。 雑草幼小期。
						同上	は 種 前	150～450 ^g	雑草幼小期。

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
レタス(続)	*	シアン酸塩	シアノン			茎葉兼 土壌	植付前	150~450g	雑草幼小期.
						同上	収穫後	150~450g	同上
		ペノキサリン (ANK-553)		乳	春まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	30~60 ml	
					秋まき トンネル マルチ	土壌	定植前・ マルチ前	20~40 ml	
		(S-28)	クレマート	乳	秋まき 露地	同上	定植前	20~40 ml	
					秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	20~50 ml	
		(NTN-80)	トクノールM	乳	春まき 露地マルチ	同上	定植前・ マルチ前	60~80 ml	
		(NTN-80)	トクノール	乳	トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	30~50 ml	
		同上	同上	水和	初夏まき	同上	定植後	25~35 g	
					露地	同上	定植前	25~50 g	
		TCTP (DAC-893)	ダクター	水和	秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	110~150g	
					春まき露 地マルチ	同上	定植前・ マルチ前	110~150g	
		パラコート+ 起泡剤				茎葉	生育期	パラコート 30 ml 起泡剤0.2%	うね間処理.
		ベンチオカーブ (B-3015)	サターン	乳	春まき露 地マルチ	土壌	定植前・ マルチ前	60~100 ml	
					秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	100 ml	
		アラクロール	ラッソー	乳	秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	10~20 ml	
		(NHKS)		粉	秋まき トンネル マルチ	土壌 混和	定植7~ 10日前	600~800g	
					露地	同上	定植7~ 10日前	600~800g	
		プロピザミド (RH-315)	カーブ	水和	秋まき露 地マルチ	土壌	定植前・ マルチ前	10~30 g	キク科雑草優 占地を除く.
					秋まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	15~30 g	同上
					春まき トンネル マルチ	同上	定植前・ マルチ前	15~30 g	同上
					春まき露 地	同上	定植後	20~30 g	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/畓	備考
レタス(続)		プロピザミド	カーブ		秋まき トンネル マルチ	土壌	は種後	20~30g	
		バーナレート	バーナム	粒	秋まき トンネル マルチ	同上	定植前	300~400g	
						土壌 混和	定植前	300~400g	
ミツバ	*	CMMP	ダクロン	乳	(本畑)	茎葉 兼 土壌	定植活着 後	50~100 ^{ml} 希釈水量 10 ^l	雑草草丈 3cmまで.
	*	リニュロン	アフアロン ロロックス	水和		土壌	は種直後	10~15g	
	*	NIP	ニップ	乳		同上	は種後	80 ^{ml}	
						同上	生育期	100 ^{ml}	
	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	石油系	シルバゾール	油状		茎葉	本葉2~ 3葉期	4~6 ^l	原液散布.
	*	パラコート	グラモキソン	液		同上	生育期	15~30 ^{ml}	
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
パセリー	*	CMMP	ダクロン	乳		茎葉	は種後	50~100 ^{ml} (希釈水量 10 ^l)	雑草草丈 3cm位まで.
	*					同上	発芽後	50~100 ^{ml} (希釈水量 10 ^l)	同上
						同上	移植活着 後	50~100 ^{ml} (希釈水量 10 ^l)	同上
	*	リニュロン	アフアロン ロロックス	水和		土壌	は種直後	10~20g	
	*	パラコート	グラモキソン	液		同上	生育期	15~30 ^{ml}	
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
		ベストック (DC-55)		乳		同上	は種後	100~200 ^{ml}	
セルリー	*	リニュロン	アフアロン ロロックス	水和		土壌	定植活着 後	10~15g	うね間処理.
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	同上
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
セルリー (続)		パラコート	グラモキソン	液		茎葉	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
シュンギク	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		土壌	は種直後	50~60 ^{ml}	
アスパラガス	*	DCMU	ダイロン	水和		土壌	培土後 萌芽前	10 ^g	砂質性及び 透水性土壌 は避ける。
	*		カーメックスD	水和		同上	培土後	10 ^g	同上
	*					同上	培土くず し後	10 ^g	同上
	*					同上	萌芽期前 後	10 ^g	同上
	*	リニュロン	アフアロン ロックス		(苗床)	同上	は種直後 及び発芽 1か月以降	10~20 ^g	
	*				本畑 ホワイト	同上	培土後及 び培土く ずし後	10~20 ^g	
	*				本畑 グリーン	同上	雑草発生 前~発芽 後2~3回	10~20 ^g	
	*				同上	同上	春萌芽期 及び夏期 ~収穫期 年2回	10~20 ^g	
	*	アトラジン	ゲザプリム		ホワイト	同上	培土後及 び培土く ずし後	10~20 ^g	
		IPC	CIPC		(苗床)	同上	は種直後	20~30 ^{ml}	
					(本畑)	同上	培土後雑 草発生前	25~30 ^{ml}	20℃以下の 時期に散布。
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理。
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
アスパラガス (続)		メトリブジン (NTN-70)	センコール	水和	グリーン	土壌 兼 茎葉	雑草発生 前～同4 ・5葉期	10～15g	2回反復可.
					ホワイト	同上	雑草発生 前～同4 ・5葉期	10～15g	同 上
		アシュラム	アージラン	液	グリーン	茎葉	雑草2・ 3葉期	100～200 ^{ml}	同 上
					ホワイト	同上	雑草2・ 3葉期	100～200 ^{ml}	同 上
ネギ	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		土壌	は種直後	50～60 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	うね間処理.
	*					同上	は種前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150～450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150～450 ^g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150～450 ^g	同 上
	*					同上	収穫後	150～450 ^g	同 上
		TCTP (DAC-893)	ダクター	水和	春まき露 地苗床	土壌	は種後	110～150 ^g	
					春まき トンネル 苗床	同上	は種後	100～130 ^g	
					春まきハ ウス苗床	同上	は種後	100～130 ^g	
		トリフルラリン	トレファノサイド	乳	春まき	同上	定植後	20～30 ^{ml}	
		リニュロン	ロロック ス アファロン	水和	秋まき	同上	定植活着 後	10～15 ^g	うね間処理.
					春まき	同上	定植活着 後	10～15 ^g	
		ベスタック (DC-55)		乳	秋まき	同上	定植後	100～200 ^{ml}	
					秋まき	同上	定植活着 後	100～200 ^{ml}	
					秋まき	同上	定植活着 後及び生 育期	150～200 ^{ml}	反復処理.
		NIP	ニップ	乳	春まき	同上	定植後	60～80 ^{ml}	
		ZM	バイオメート	粉	9～10月 まき苗床	土壌 混和	は種2週 間前	2～3 ^{kg}	
					春まき苗 床	同上	は種2週 間前	1.5～3.0 ^{kg}	
タマネギ	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	定植後	20～40 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
タマネギ (続)	*	トリフルラリン	トレフェノサイド			土壌混和	定植前	15~30 ml	
	*	同上	同上	粒		土壌	定植後	400~500g	
	*					同上	生育期	400~500g	
	*					土壌混和	定植前	300~400g	
	*	DCMU	ダイロン, カーメックス	水和		土壌	定植1か月後	2g	砂質性及び透水性土壌は避ける。
	*					同上	定植2~3か月後	3~6g	同上
	*	リニュロン	アフアロン, ロロックス	水和		土壌	定植活着後	10~20g	
	*	IPC	クロロIPC	乳		同上	定植活着後	20~30 ml	
	*					同上	中耕施肥後	20~30 ml	
		同上	同上	水和	(寒地)	同上	定植活着後	30~35g	
	*	IPC・DCMU	ハービサン	水和	直はん	同上	本葉2~3葉期以降	15~20g	
	*					同上	定植活着後	15~20g	
	*	MCC	スエップ	粒		同上	定植活着後及び春季生育期	300~400g	反復処理。
	*	NIP	ニップ	乳		同上	は種直後	80 ml	
	*					同上	定植活着後	80 ml	
	*	CAT	シマジソ	水和		同上	定植後	5~10g	
	*	SAP・プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ml	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ml	うね間処理。
	*					同上	は種前	15~30 ml	
	*					同上	植付前	15~30 ml	
	*					同上	収穫後	15~30 ml	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450g	うね間処理。雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450g	同上
	*					同上	収穫後	150~450g	同上
		ペノキサリン (ANK-553)		乳	[寒地・寒冷地]	同上	定植活着後	30~60 ml	
		(S-28)	クレマート	乳	秋まき	土壌	定植後及び春季雑草発生前	20~40 ml	反復うね間。

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
タマネギ (続)		(S-28)	クレマート		(寒地)	土壌	定植活着後	20~40 ^{ml}	雑草発生始期まで。
		TCTP (DAC-893)	ダクタール	水和	寒地直は ん	同上	は種直後	150~200g	
					苗床	同上	は種後	80~130g	
		(NTN-80)	トクノール			同上	定植後及び 春季生育期	定植後30~ 50g 春季生育期 40g	反復処理。
		(NK-049)		水和		同上	定植活着後 及び春季生育期	定植活着後 80g 生育期80~ 100g	反復処理。
		(SL-55)		水和		同上	定植後	10~15g	
		IPC・DCMU (HSW-493)	ハービサン	水和	(寒地)	同上	定植活着後	40~60g	雑草発生始期まで。
		(NTN-80 + Tribunil)		水和		同上	定植後 + 春季生育期	定植後 NTN -80 40g Tribunil 30~40g	体系処理。
		CAT・CIPC		水和		同上	定植活着後	20~30g	うね間処理。
						同上	春季	25~37.5g	うね間処理。
					(寒地)	同上	定植活着後	25~35g	
		プロメトリン	ゲザガード	水和		同上	定植活着後	15~20g	うね間処理。
		Tribunil		水和	(寒地)	茎葉	生育期	20~40g	雑草2~3 葉期まで。
						土壌	定植活着後及び 春季生育期	活着後20~ 40g 生育期30g	反復処理。
		IPC・DCMU (HSW-7201)	ハービサン	水和	(寒地)	同上	定植活着後	30~40g	
ニラ		ベスタック (DC-55)		乳		同上	定植後及び 生育期	150~200 ^{ml}	反復処理。
		(NHKS)		粉	苗床	土壌 混和	は種2週 間前	300~400g	
		アイオキシニル	アクチノール	乳	秋まき	茎葉	早春期	10~20 ^{ml}	高温時はさける。雑草 特に広葉4 葉期まで。
		(ZM)	ビオメート	粉	苗床	土壌 混和	は種2週 間前	2~3 kg	
		リニュロン	アフアロン、 ロックス		本畑	土壌	定植後及び 収穫後	10~15g	反復処理。
ラッキョウ					株養成畑	同上	定植後	10~15g	
		TCTP (DAC-893)	ダクタール		普通 5月どり	土壌	定植後及び 春季	150~250g	反復処理。

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ニンニク		PCP・リニユロン (NC-301)		粒		土壌	植付後	100~150g	
トマト	*	CMMP	ダクロン	乳	直はん	茎葉	本葉8葉以降	50~100 ^{ml} (希釈水量10ℓ)	雑草発生初期.
	*	ジフェナミド	ダイミッド	水和		土壌	は種後	50~60g	
	*					同上	定植前	50~60g	
	*					同上	定植後	50~60g	
	*	同上	エナイド	水和	露地	同上	定植後	60~80g	
					ハウス	同上	定植後	60~80g	
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	定植前	20~40 ^{ml}	
						同上	定植後	20~40 ^{ml}	
						土壌混和	定植前	15~30 ^{ml}	
						同上	定植後	15~30 ^{ml}	
	*	クレダジン	クサキラー	水和		土壌	定植後	40~60g	雑草発生前 ~発生始期 処理.
	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	アラクロール	ラッソー	乳	ハウス	同上	定植後マルチ前	10~20 ^{ml}	株間処理.
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理.
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理. 雑草幼小期.
						同上	は種前	150~450g	雑草幼小期.
						同上	植付前	150~450g	同上
						同上	収穫後	150~450g	同上
		(S-28)	クレマート	乳	早熟露地	土壌	定植後	40~60 ^{ml}	うね間株間 処理.
					露地	土壌	定植活着 後	30~50 ^{ml}	同上
		(U-67)		水和	ハウス	同上	定植後	25~30g	
					露地	同上	定植前	30~40g	
					露地	同上	定植後	30~40g	
		(U-67)		粒	露地	同上	定植前	300~400g	
					露地	同上	定植後	300~400g	
					ハウス	同上	定植後	300~400g	
					寒露地	同上	定植前	300~400g	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
		(U-67)		粒	寒露地	土壌	定植後	300~400g	
				粒	ハウス	同上	定植後	400~600g	
		ジクワット	レグロックス	液		茎葉	生育期	20~40 ^{ml}	うね間株間処理.
		ニトラリン	プラナビアン	水和	加工用	土壌	定植後	10~20g	
					トンネルマルチ	同上	定植後	10~20g	
					トンネル無マルチ	同上	定植後	10~20g	
					トンネルマルチ	同上	定植前マルチ前	15~25g	
		トリフルラリン	トレファノサイド	粒	早熟地	土壌混和	定植前	300~400g	
					早熟地	土壌	定植前	400~500g	
		NIP	ニップ	乳	ハウスマルチ	同上	定植前	60~100 ^{ml}	
		(R-7465)		水和	露地	同上	定植活着後	40~60g	
					早熟地	同上	定植活着後	40~80g	
		ベスタック (DC-55)		乳	露地	同上	定植後	125~150 ^{ml}	株間処理.
					ハウス	同上	定植後	125~150 ^{ml}	同上
					ハウスマルチ	同上	定植後	100~200 ^{ml}	
		バーナレート	バーナム	粒	マルチ(トンネルなし)	土壌混和	定植前マルチ前	300~400g	
					マルチ(トンネルなし)	同上	定植後マルチ前	300~400g	
ナス	***	ジフェナミド	ダイミッド	水和		土壌	は種後	50~60g	
						同上	定植前	50~60g	
						同上	定植後	50~60g	
		同上	エナイド	水和		同上	定植後	40~60g	株間・うね間処理.
	*	SAP・プロメトリン	エス	乳		土壌	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	定植前	20~30 ^{ml}	
	****	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	うね間処理.
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理量/a	備考
ナス(続)	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450g	同上
	*					同上	収穫後	150~450g	同上
		NIP	ニップ	粒		土壌	定植活着 後	40~60g	
		(R-7465)		水和	早熟地	同上	定植活着 後	40~60g	
ピーマン	*	クレダジン	クサキラー	水和		土壌	定植後	40~60g	雑草発芽始 期まで。
	*	ジフェナミド	ダイミッド	水和	抑制	同上	は種後	30~50g	
	*				促成	同上	は種後	30~50g	
	*				半促成	同上	は種後	30~50g	
	*				抑制	同上	定植前	30~50g	
	*				促成	同上	定植前	30~50g	
	*				半促成	同上	定植前	30~50g	
	*				抑制	同上	定植後	30~50g	
	*				促成	同上	定植後	30~50g	
	*				半促成	同上	定植後	30~50g	
		同上	エナイド	水和	露地	同上	定植後	40~60g	株間・うね 間処理。
		ベスタック (DC-55)		乳	露地マルチ	同上	定植前	100~200ml	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30ml	
	*					同上	は種前	15~30ml	
	*					同上	植付前	15~30ml	
	*					同上	収穫後	15~30ml	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150~450g	同上
	*					同上	収穫後	150~450g	同上
トウガラシ	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	定植前	20~40ml	
	*					同上	定植後	20~40ml	
	*					土壌 混和	定植前	15~30ml	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼 土壌	生育期	150~450g	うね間処理。 雑草幼小期。

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理葉量/a	備考
トウガラシ (続)	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		同上	は種前	150~450g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150~450g	同上
	*					同上	収穫後	150~450g	同上
キュウリ	*	NPA	アラナップ	液		土壌	は種直後	120~170 ^{ml}	
						同上	生育期	120~170 ^{ml}	つるを伸ばし始める前までに作物にかからぬよう散布.
	*	SAP・プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*					同上	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*					同上	生育期	150~450g	うね間処理. 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150~450 ^{ml}	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150~450 ^{ml}	同上
	*	(NTN-80)	トクノールM	乳		同上	収穫後	150~450 ^{ml}	同上
						土壌	定植後	65~100 ^{ml}	うね間・株間処理.
						同上	定植後	25~40g	うね間・株間処理.
						同上	定植後	25~40g	うね間・株間処理.
		トリフルラリン	トレファノサイド	乳	露地直はん	同上	は種後	20~30 ^{ml}	覆土は厚目とする.
		TCTP (DC-893)	ダクター	水和	露地	同上	定植活着後	110~150g	うね間・株間処理.
スイカ		NPA	アラナップ	液		土壌	は種直後	120~170 ^{ml}	
						同上	生育期	120~170 ^{ml}	
		トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	生育期	20~40 ^{ml}	雑草発生前処理.
						同上	生育期	20~40 ^{ml}	雑草発生前処理.
	*					トンネルマルチ	定植前マルチ前	20~40 ^{ml}	
	*					ホットキャップ	定植キャップ後	20~40 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒		同上	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	生育期	15~30 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒		トンネルマルチ	定植前・マルチ前	200~400g	
	*					トンネルマルチ	生育期・トンネル除去前	400~600g	うね間処理.
	*	NIP	ニップ	乳		同上	生育期	80~100 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理量/a	備考
スイカ(続)	*	N I P	ニップ	乳	トンネルマルチ	土壌	定植前	60~80 ^{ml}	
	*	S A P・プロメトリン	エス	乳		同上	生育期	80~100 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
		(S-28)	クレマート	乳	露地マルチ	土壌	定植前・マルチ前	30~60 ^{ml}	
					トンネルマルチ	同上	定植前・マルチ前	40~60 ^{ml}	
		(NTN-80)	トクノールM	水和	露地マルチ	同上	定植前・マルチ前	30~50 ^{ml}	
		(U-67)		粒	トンネルマルチ	同上	定植前・マルチ前	200~250 ^g	
		アシュラム	アージラン	液	トンネルマルチ	同上	定植前・マルチ前	100~120 ^{ml}	
						同上	定植前・マルチ前7日前	80~100 ^{ml}	
		MCC	スエップ	水溶	露地マルチ	同上	定植前・マルチ前	100~125 ^g	
メロン	*	NPA	アラナップ	液	露地	土壌	は種直後	120~170 ^{ml}	
	*				露地	同上	生育期	120~170 ^{ml}	
	*				被覆	同上	は種直後	170~200 ^{ml}	
	*				被覆	同上	生育期	170~200 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期.
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期.
	*					同上	植付前	150~450 ^g	同上
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
メロン(続)		トリフルラリン	トレファノサイド	乳	トンネルマルチ	土壌	定植5～7日前、マルチ前	15～20 ^{ml}	
					トンネルマルチ	同上	トンネル除去前	20 30 ^{ml}	うね間処理.
		同上	同上	粒	トンネルマルチ	同上	定植5～7日前、マルチ前	200～300 ^g	
					トンネルマルチ	同上	トンネル除去前	400～500 ^g	うね間処理.
		ニトラリン	プラナビアン	水和	トンネルマルチ	同上	定植前・マルチ前	15～20 ^g	
イチゴ	*	CMMP	ダクロン	乳	(親株床)	茎葉兼土壌	移植活着後	50～100 ^{ml}	
	*				(親株床)	同上	ビニルマルチ除去後	500～100 ^{ml}	
	*				(本畑)	同上	移植活着後	500～100 ^{ml}	
	*	ジフェナミド	ダイミッド	水和	(親株床)	土壌	移植後	30～60 ^g	
	*				(小苗床)	同上	移植後	30～60 ^g	
	*				(本畑)	同上	移植後～生育中	25～50 ^g	
	*	同上	エナイド	水和	(親株床)	同上	定植活着後	40～80 ^g	株間処理.
	*				施設マルチ	同上	定植後及びマルチ前	30～50 ^g	2回反復.
	*				露地マルチ	同上	定植後及びマルチ前	30～50 ^g	2回反復.
	*	IPC	クロロIPC	乳	(苗床)	同上	苗定植活着後	15～20 ^{ml}	
	*	NIP	ニップ	乳	(苗床)	同上	移植活着後	80～100 ^{ml}	
	*				(本畑)	同上	定植活着後	80～100 ^{ml}	
					半促成ハウス	同上	定植後及びマルチ前	80～120 ^{ml}	反復処理, 株間処理.
	*	CAT	シマジン	水和		同上	定植1か月後	5～10 ^g	
	*	レナシル	レンザー	水和		同上	植付後	10～15 ^g	
	*				(子苗床)	同上	活着後	5～10 ^g	
	*	クレダジン	クサキラー	水和	(親株床)	同上	定植活着後・ランナー発生前	40～60 ^g	
	*				(本畑)	同上	定植後	40～60 ^g	
	*				本畑	同上	マルチ前	40～60 ^g	
	*					同上	定植後及びマルチ前	30 ^g	反復処理.

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
イチゴ(続)		クレダジン	クサキラー	微粒	ハウス半促成,トンネルマルチ	土壌	定植後及びマルチ前	400~500g	反復処理,株間処理.
	*	アラクロール	ラッソー	乳	(親株床)	同上	定植後及びマルチ前	10~20 ^{ml}	反復処理.
	*				本畑ハウス	同上	定植後及びマルチ前	10~20 ^{ml}	うね間株間処理,反復処理.
	*				(寒地)本畑マルチ	同上	定植後及び春期マルチ前	15~20 ^{ml}	反復処理.
	***	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
						同上	植付前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	***	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450g	うね間処理,雑草幼小期.
						同上	植付前	150~450g	雑草幼小期.
						同上	収穫後	150~450g	同 上
		ペノキサリン(ANK-553)		乳	露地	土壌	活着後マルチ前	30~40 ^{ml}	
					ハウス半促成	同上	活着後マルチ前	20~40 ^{ml}	
		(S-28)	クレマート	乳	(親株床)	同上	定植後	20~40 ^{ml}	
					トンネルマルチ(促成)	同上	定植後及びマルチ前	20~40 ^{ml}	反復処理.
					ハウスマルチ	同上	定植後及びマルチ前	20~40 ^{ml}	同 上
		(NTN-80)	トクノールM	水和	露地マルチ	同上	定植後及びマルチ前	定植後30~50g,マルチ前40g	
					ハウス・トンネルマルチ	同上	定植後及びマルチ前	定植後30~50g,マルチ前40g	
		(U-67)		水和	露地マルチ	同上	定植前及びマルチ前	30~40g	反復処理.
					ハウス・マルチ半促成	同上	定植後	40g	
					ハウス・マルチ半促成	同上	定植後及びマルチ前	30g	反復処理.
		同 上		粒	ハウス・マルチ半促成	同上	定植後	400g	
					ハウス・マルチ半促成	同上	定植後及びマルチ前	300g	反復処理.
					露地マルチ	同上	定植前及びマルチ前	300~400g	反復処理.

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
イチゴ(続)		I P C・アラクロール		乳	寒露地	土壌	生育期	15~25 ^{ml}	
		フェンメディファム	ベタナール	乳	寒露地	茎葉	雑草2~3葉期	80 ^{ml}	
		ベスタック(DC-55)		乳	ハウス半促成	土壌	定植後及びマルチ前	100~200 ^{ml}	反復処理。株間処理。
					(親株床)	同上	移植後	100~200 ^{ml}	
ダイコン	*	アラクロール	ラッソー	乳		土壌	は種後	10~15 ^{ml}	
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	は種後	15~30 ^{ml}	
	*					土壌混和	は種前	15~30 ^{ml}	
	*	N I P	ニップ	水和	春まき	土壌	は種直後	30 ^g	
	*	同上	同上	乳		同上	は種直後	80~100 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒		同上	は種直後	400~600 ^g	
	*	C N P	M O	乳		同上	は種後	100~125 ^{ml}	
	*	C A T	シマジソ	水和		同上	は種直後	5 ^g	
	*	プロメトリン	ゲザガード	水和		同上	は種後	5~10 ^g	
	*	S A P・プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理。雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
		(RH-315T)		水和	春まき	同上	は種後	30~40 ^g	砂土は避ける。
カブ	*	N I P	ニップ			土壌	は種直後	80~100 ^{ml}	
	*	S A P・プロメトリン	エス			同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15~30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15~30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉兼土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理。雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	収穫後	150~450 ^g	同上
ニンジン	*	C M M P	ダクロン	乳		茎葉兼土壌	第3本葉期以後	50~100 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ニンジン (続)	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	は種前	20~30 ^{ml}	
						同上	は種後	20~30 ^{ml}	
					冬まき トンネル	同上	は種後	20~30 ^{ml}	
					(寒地)	同上	は種後	30~40 ^{ml}	
						土壌 混和	は種前	15~30 ^{ml}	
					(寒地)	同上	は種前	15~25 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒		土壌	は種後	400~600 ^g	
						土壌 混和	は種前	300~500 ^g	
					寒地	同上	は種前	400 ^g	5cm以内 混和。
	*	リニュロン	アフアロン, ロックス			土壌	は種直後	10~20 ^g	
						同上	本葉2~3 葉期以降 の生育期	10~20 ^g	
	*	NIP	ニップ	乳		同上	は種後	80~100 ^{ml}	
						同上	生育期	80~100 ^{ml}	
	*	同上	同上	水和		同上	は種直後	40~60 ^g	
	*	同上	同上	粒		同上	は種後	400~600 ^g	
	*	IPC	クロロIPC	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	高温時処理 は不適。
	*	CNP	MO	乳		同上	は種後	125~150 ^{ml}	
	*	プロバジン	ゲザミル	水和		同上	は種後	15~20 ^g	
						同上	本葉1~ 2葉期	15~20 ^g	
	*	プロメトリン	ゲザガード	水和		同上	は種後	10~20 ^g	
						同上	生育期	10~20 ^g	
	*	SAP・ プロメトリン	エス	乳		同上	は種直後	50~60 ^{ml}	
	*	石油系	シルバゾール	液 (油状)		茎葉	本葉2~ 3葉期	4~6 ^l	原液散布, 雑草発生後。
	*	パラコート	グラモキソン	液		同上	生育期	15~30 ^{ml}	
						同上	は種前	15~30 ^{ml}	
						同上	収穫後	15~30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150~450 ^g	うね間処理. 雑草幼小期。
						同上	は種前	150~450 ^g	雑草幼小期。
						同上	収穫後	150~450 ^g	同上
	*	ペノキサリン (ANK-553)		乳	春~初夏 まき	同上	は種後	30~60 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ニンジン (続)		ペノキサリン (ANK-553)		乳	冬～春まきトンネル	土壌	は種後	20～40 ^{ml}	
		(S-28)	クレマート	乳	春～初夏まき	同上	は種後	30～60 ^{ml}	
					冬まきトンネルマルチ	同上	は種前 マルチ前	20～50 ^{ml}	
		(NTN-80)	トクノールM	乳	春まき露地	同上	は種後	65～100 ^{ml}	
		同上	同上	水和	冬まき露地	同上	は種後	30～50 ^g	
					冬まきトンネル	同上	は種後	30～50 ^g	
					春～初夏まき	同上	は種後	25～50 ^g	
		同上	同上	粒	冬～春まきトンネルマルチ	同上	は種前 マルチ前	500～700 ^g	
		TCTP (DAC-893)	ダクター	水和	トンネル	同上	は種後	110～150 ^g	
					春～初夏まき	同上	は種後	110～150 ^g	
		ベスタック (DC-55)		乳	春まき露地	同上	は種後	150～200 ^{ml}	
					春まきトンネル	同上	は種後	100～200 ^{ml}	
ゴボウ		IPC・ リニュロン (SLD-695)	セルビーン	水和	(寒地)春まき露地	茎葉	本葉1～3葉期	25～30 ^g	雑草の生育初期。
		(MSP-1)	除草剤プロメ トリン添加 フィルム		春まき	被覆	は種後	—	は種後フィルム被覆。
	*	IPC	クロロIPC	乳		土壌	は種直後	50～90 ^{ml}	
	*	NIP	ニップ	乳		同上	は種後	80～100 ^{ml}	
	*					同上	生育期	80～100 ^{ml}	
	*	CNP	MO	乳		同上	は種後	125～150 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩		水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150～450 ^g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150～450 ^g	雑草幼小期。
	*					同上	収穫後	150～450 ^g	同上
		トリフルラリン	トレファノサイド	乳	春まき	土壌	は種後	20～30 ^{ml}	
		ベスタック (DC-55)		乳	春まき	同上	は種後	100～200 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ヤマノイモ	*	リニュロン	アフアロン, ロロックス	水和		土壌	植付後～ 萌芽前	10～15g	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150～450g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150～450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150～450g	同上
	*					同上	収穫後	150～450g	同上
		CMMP	ダクロン	乳		同上	植付後～ 雑草発生 初期	100～200 ^{ml}	
		トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌 混和	植付前	20～30 ^{ml}	
						土壌	植付後	20～30 ^{ml}	
						同上	生育中	20～30 ^{ml}	うね間株間 処理。
		同上	同上	粒		土壌 混和	植付前	400～600g	
						土壌	植付後	400～600g	
						同上	生育中	400～600g	うね間株間 処理。
サトイモ	*	リニュロン	アフアロン, ロロックス	水和		土壌	植付後～ 出芽前	10～15g	
	*	CAT	シマジン	水和		同上	植付時及 び土寄せ 時	5～10g	反復処理。
	*	トリフルラリン	トレファノサイド	乳		同上	植付後 マルチ前	30～40 ^{ml}	
	*	パラコート	グラモキソン	液		茎葉	生育期	15～30 ^{ml}	
	*					同上	は種前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	植付前	15～30 ^{ml}	
	*					同上	収穫後	15～30 ^{ml}	
	*	シアン酸塩	シアノン	水溶		茎葉 兼 土壌	生育期	150～450g	うね間処理。 雑草幼小期。
	*					同上	は種前	150～450g	雑草幼小期。
	*					同上	植付前	150～450g	同上
	*					同上	収穫後	150～450g	同上
ショウガ		トリフルラリン	トレファノサイド	乳		土壌	植付後	20～40 ^{ml}	
						土壌 混和	植付前	30 ^{ml}	

作物名	登録	種類名	商品名	剤型	作型	処理法	処理時期	処理薬量/a	備考
ショウガ (続)		トリフルラリン	トレファノサイド	粒	(寒地)	土壌混和	植付前	600g	
					(寒地)	土壌	植付後	600g	
インゲンマメ	*	I P C	クロロ I P C	乳		土壌	は種直後	50~90 ^{ml}	
	*	E P T C	エプタム	乳		土壌混和	は種前	30~40 ^{ml}	
	*	同上	同上	粒		同上	は種前	600~800g	
	*	I P C・リニュロン	セルビーン	水和		土壌	は種後～発芽前	20~24g	
	*	D N B P	プリマージ	液		土壌兼茎葉	は種後～発芽前	50~90 ^{ml}	
	*	プロメトリン	ゲザガード	水和		土壌	は種翌日～発芽開始2日前	10~20g	
	*	D N B P A	アレチット	水和		土壌兼茎葉	は種直後～発芽期	40~60g	
	*	P C P・リニュロン	ハタペット	水和		土壌	は種後～発芽前	80~100g	
	*	リニュロン	アフアロン、ロロックス	水和		同上	は種直後	10~12g	
	*	アラクロール	ラッソー	乳		同上	は種直後	30~40 ^{ml}	
食用ユリ		M C C	スエップ	粒		土壌	植付後及び生育中(春季発芽前)	植付後100~130g, 生育中70g	反復処理.
		C A T	シマジン	水和	(寒地)露地マルチ	同上	秋	20~25g	
					(寒地)露地マルチ	同上	春及び夏	20~25g	2回反復.
		トリフルラリン	トレファノサイド	粒	(寒地)露地マルチ	同上	秋	500g	
						同上	春	500g	

財団法人日本植物調節剤研究協会編

Weed List in Asian-Pacific Area

各国の雑草の呼称名を学名と対照した雑草名鑑。学名に対し日本名、英名、ハワイ名、インドネシア名、中国名、台湾名、ソビエト名、韓国名を対照している。

A 4版 47ページ
定価 2,000円(送料別)

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育教会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番

第4表 未登録薬剤とその薬剤特性

薬 剤 名			有 効 成 分	含有率	剤型	作用 特 性	吸収部位
試 験 名	種 類 名	商 品 名					
ANK-553	ペノキサリン		N-(1-エチルプロピル)-3,4-ジメチル-2,6-ジニトロアニリン	30%	乳	非ホルモン吸収移行型。	根及び幼芽部から。
S-28		クレマート	0-エチル-0-(3-メチル-6-ニトロフェニル)-N-セカンダリーブチルホスホロチオアミデート	50%	乳	非ホルモン型。	幼芽部から。
NTN-80		トクノールM	0-メチル-0-(2-ニトロ-4-トリル)N-イソプロピルホスホルアミドチオネート	60%	水和	発芽発根伸長抑制。	幼芽部、根部から。
DAC-893	TCTP	ダクター	2,3,5,6-テトラクロルテレフタル酸ジメチル	75%	水和	雑草の発芽時生長点部分に作用。	幼芽部及び根部から。
U-67			3,4,5-トリプロム-N,N-α-トリメチルピラゾール-1-アセトアミド	75% 6%	水和 粒	非ホルモン型。 吸収移行型。	根部、幼芽部から。
SL-55			未 公 開			接触性	幼芽部及び生育初期の茎葉から。
R-7465	ナプロバミド	デブリノール	2-(α-ナフトキシ)-NN-ジエチルプロピオンアミド	50%	水和		根部、幼芽部から。
NTN-70	メトリブジン	センコール	4-アミノ-6-テルトブチル-3-(メチルチオ)-1,2,4-トリアジン-5-(4H)-オン	50%	水和	光合成阻害。	根部、茎葉部から。
NHKS			3,5-ジメチル-テトラヒドロ-1,3,5-2H-チアジアジン-2-オン		粉	発芽阻害 土壤中で有効化する。茎葉処理効果なし。	
DC-55	ベスタック		4-テリアリーブチル-2,6-ジメチル-3,5-ジニトロアセトフェノン	20%	乳	非ホルモン型 茎葉処理効果はない。	
NK-049			3,3'-ジメチル-4-メトキシベンゾフェノン	50%	水和	非ホルモン吸収移行型。	幼芽部>根部。
トリブニール			1,3-ジメチル-3-(2-ベンゾチアゾリール)ウレア	70%	水和	光合性阻害。	根部、茎葉部から。

選択殺草性		殺草作用	殺草 Spectrum	処理適期幅 (除草効果)	薬害症状	持続効果 (残効性)	土壤中 の移動 性	土 壌 の 影 響	温 度 の 影 響
発芽時	1～3 葉 期								
極大		植物の生長点の細胞分裂を阻害し、根及び幼芽の生育抑制を示す。	キク科に劣る。	雑草発生前～発芽時	黄化	長	小	小	小
非選択性	イネ科 ⅤⅡ 広葉	発生防止、幼小雑草の枯殺。	イネ科：極大 広 葉：大 キク科：中	雑草発生前～発生始期	生育抑制	長～極長	小	小	小
イネ科 =広葉	効果劣る	雑草発芽時に幼芽部・根部の生長点部分に作用し、生長を抑制し枯死させる。	キク科に劣る。	雑草発生前	生長点に薬液が過剰に付いた場合は生育抑制	極長 (メヒシバ 45日)	小(表層1cm以内にとどまる)	小	小
イネ科 >広葉			イネ科、広葉に極大、キク科アブラナ科に小。	雑草発生前	生育抑制	36～40日	0～1cm	小	なし
全草種 に有効	効果不足	発芽阻止作用。	イネ科：極大、 カヤツリグサ科： 極大、広葉：極大。	雑草発生前		長	小	小	なし
			ノビエ、メヒシバ スズメノテッポウ ハコベ、タデ、 アカザ、ノミノフ スマ等に効果大。			長	小		
		雑草発生阻止。		雑草発生前					
効果大 (全草種)	効果大 (全草種)	根部、茎葉部から吸収され徐々に葉先より黄化し枯死に至る。	ツクサを含む一年生雑草。	雑草発芽前～雑草4～5葉期	下葉枯葉先枯黄化	極長 (広葉類 45日)	中	中	中
			広葉、禾本科植物間の選択性なし。	雑草発生前					
		種子の発芽時に最も強い殺草力を示す。	禾本科、広葉の一年生雑草の発生を抑えるタデ類にやや効果劣る。	雑草発生前		中	埴壌土1cm以内 砂壌土2cm以内		
イネ科 >広葉	イネ科 >広葉	クロロフィル生成阻害。	タデにはやや劣る。	雑草発生前～発生直後	白化	冬：極長 夏：長～中	極小	なし	低温>高温
効果大 (全草種)	効果大 (全草種)	根部、茎葉部から吸収され徐々に葉先より黄化し枯死に至る。	スズメノテッポウハコベを含む秋冬期1年生雑草。	雑草発生前～雑草2～3葉期	下葉枯葉先枯黄化	極長	小	小～中	中